



2025 いちおし! ぎふと本

岐阜の学校図書館員が
選んだ本

大賞決定



ロゴデザイン：井上瑠香

(岐阜県立岐阜商業高等学校卒)

「イチオシ！ぎふと本」とは…

2024年7月～2025年6月に
出版された本の中から
高校生に読んでほしい、
ぜひ手に取ってほしい！

という本を
岐阜県の学校司書や司書教諭が
投票して選びました。

イチオシ! ぎふと本

岐阜の学校図書館員が
選んだ本
2025

投票上位作品

2位

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木俊貴／著（小学館）

◇言葉を持つのは、本当に人間だけなのでしょうか。動物言語学者が、愛すべきシジュウカラの生態を通して、その謎に迫ります。何かを成し遂げるためには、地道な努力と諦めない心が必要であることを教えてくれる一冊です。



大賞

『謎の香りはパン屋から』

土屋うさぎ／著（宝島社）

◇図書館員としては「食べながら図書館の本を読む」ことはおススメしたくないのですが、思わず作中のパンを片手に謎解きをしたくなるのが悩ましいところです。

◇ミステリーと言っても日常の些細なことで、パン屋のほんわかした空気感がいいです。

◇登場人物たちが持つ「弱点・欠点」が話のカギを握る。青春小説としても、ミステリーとしても楽しめます。

2位

『本を読んだことがない32歳が
はじめて本を読む』

かまど, みくのしん／著（大和書房）

◇まさか『走れメロス』で、こんなに笑うことになるなんてー。そんな驚きと発見に満ちた本です。

◇知っているはずの話がこんなにも楽しく読める！読み始めたらずまらない、なんとも新鮮な読書体験ができました。

4位

『その本はまだルリユール
されていない』

坂本葵／著（平凡社）

◇司法書士の夢を諦め、小学校の学校司書として働き始めた主人公が、「ルリユール工房」で出会った人々とともに、傷ついた人生を少しずつ立て直していく物語。静かに心を癒してくれる、優しさに満ちた世界です。

イチオシ! ぎふと本
岐阜の学校図書館員が
選んだ本
2025

上位作品以外の本いろいろ

『ブレイクショットの軌跡』
逢坂冬馬／著（早川書房）

◇「先生！この本今までで1番良かったです。すごい本だよ」昼休みが始まると同時に来館してきた生徒がそう話してくれました。
◇終盤の伏線回収に、脱帽すること間違いなし。高校生の今だからこそ、多角的な視点に触れてほしいです。

『恋とか愛とかやさしさなら』
一穂ミチ／著（小学館）

◇すっきりとする説明も解釈も提示されないまま、主人公と共に信じることに、許すこと、愛することについて考えさせられる苦い小説。表題作の続編「恋とか愛とかやさしさより」にわずかな救済が描かれています。

『救われてんじゃねえよ』
上村裕香／著（新潮社）

◇読むのがしんどくなる話でしたが、辛い中にも小さな幸せやきらめきが見えて、どんどん次が読みたくなる本でした。ヤングケアラーのことを漠然とは知っていたものの、現実はこんなに厳しいのかということを深く考えさせられます。

『銀河の図書室』
名取佐和子／著（実業之日本社）

◇突然、学校へ来なくなってしまった「イーハトー部」部長の風見。宮沢賢治の作品を手掛かりにその理由を探ろうとする部員たち。それぞれの立場で「自分ならどうするべきだったのか」を考えさせられる作品。

『藍を継ぐ海』
伊与原新／著（新潮社）

◇大切な何かを「受け継ぐ」人々の5つの物語。技術を、夢を、命を、想いを、つないでまた次へと伝えていく。そんな長い歴史の一ページに私たちはいるんだなあと、しみじみと感じさせてくれる作品でした。

『生きる言葉』
俵万智／著（新潮社）

◇言葉で伝えるって難しい！でも、だからこそ、その力を感じて使いたい。笑えて、ほう...と納得し、ジーンと胸に響く。字ばかりだから難しい！と読まずにいるのはもったいない一冊です。

◆ここで紹介しきれなかった本は、こちらから

→ → →
ブクログ

